

企業参入による取組事例 [佐賀県佐賀市]

1. 地域農業の状況

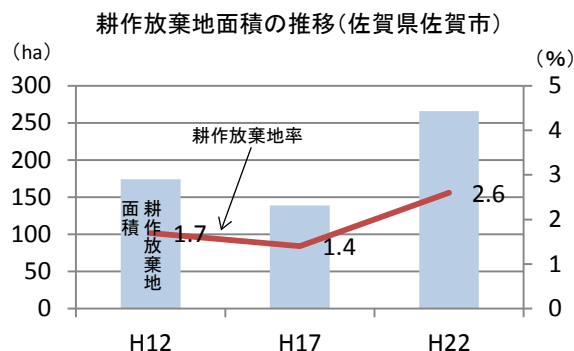
○ 佐賀市は、佐賀県の南東部に位置し、市域は南北に長く、南側は有明海に面し、北東部は脊振山地を境に福岡県福岡市・糸島市に接している。



○ 佐賀市の農業は、米麦を主体とし、北部中山間地域においては、夏期の冷涼な気候を活かしたレタス、ホウレンソウなどの高原野菜や花き、果樹の生産が盛んであり、南部平坦地域においては、温暖な気候と整備されたほ場、暗きょ排水事業により乾田化されたほ場に、麦や大豆の生産及び施設園芸が盛んである。

○ 耕地面積は10,900ha（平成26年面積調査）であり、耕作放棄地面積は266ha（平成22年農林業センサス）となっている。

○ 佐賀市大和町川上地区は、みかんを主とした果樹地帯で、近年農家の高齢化と後継者不足により耕作放棄地が増加している。



資料：農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	有限会社 西山田農園	地区名	川上(かわかみ)地区
再生面積	1.2ha(経営面積3.9ha)	取組年次	平成17年～
作付作物	ブルーベリー、そば、玉葱	販路	自社販売、直売所で販売

■企業の農外参入による耕作放棄地の再生利用

○ 地元の建設業者であった株式会社池田建設が、耕作放棄地を整備し、比較的手間がかからないブルーベリーを栽培することで地域の特産物にしたいと考え、平成17年に「有限会社 西山田農園」を設立し、農業経営に参入した。

○ 現在、ブルーベリー、そば、玉葱を中心に農業経営を行っており、そのほとんどが耕作放棄地を解消した農地、または、担い手がいない農地を引き受けたものである。

○ また、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用して、農業体験施設及びブルーベリーの加工施設を整備した。そば打ちやジャム作り体験をできるようにし、都市と農村の交流を図っている。

○ 再生した耕作放棄地を観光農園として活用することで農業経営の規模拡大を図り、耕作放棄地の更なる解消と、農業体験から観光農園まで幅広い農業のテーマパークを目指し、地域の更なる活性化に寄与したいと考えている。



活用した支援策

H20～21 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

H21～26 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業・営農定着)



【加工体験施設・森の家】